

2019年度 自己点検・評価シート

キャリアデザインプログラム

基準4	教育課程・学習成果
-----	-----------

* 各組織における新たな目標または、「2018年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
 * 2018年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2019年度期首時点)	①2019年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2019年度の取り組みとその成果 ②2019年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>●授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか ○下記内容を備えた「教育課程編成・実施の方針」の設定及び公表</p> <p>②・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○「教育課程編成・実施の方針」と「卒業認定・学位授与の方針」との適切な関連性</p>	<p>[現状説明] [現状説明] ○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な関連性</p> <p>キャリアデザインプログラムにおける「教育課程の編成・実施方針」は、本学ウェブサイトにて以下の内容が公開されている。特に学生に対しては、入学時に配付する「履修要項」に同内容を記載し周知もしている。</p> <p>キャリアデザインプログラムでは、全学のディプロマ・ポリシー(全学DP)において掲げた能力を身に付けることができるように、1年次、2年次以降のキャリアデザインプログラム科目および学部横断履修科目に関して教育課程を編成します。なお、2年次以降の各学部所属後は、本プログラムのCPに加え、所属学部で定められたCPおよびDPIに基づく教育内容・方法を実施していきます。</p> <p>本プログラムでは、進一層の気概(チャレンジ精神)を育成し、実践的な知力を身に付けることを主眼としてカリキュラムを編成しています。具体的には、「(全学DP1)社会科学に関する専門知識・能力」に対応した「学部入門科目」および「学部横断履修科目」、「(全学DP2)幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力」に対応した「総合教育科目」、「(全学DP3)現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力」および「(全学DP4)上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力」に対応した「キャリアデザインプログラム科目」を設置しています。</p> <p>(CP1)1年次の「学部入門科目」群において、経済学、経営学、コミュニケーション学、法学という、本学の各学部で学ぶことができる社会科学に関する入門科目を学びます。また、2年次以降は「学部横断履修科目」群において、所属学部に限らず各学部の専門科目を学ぶことができます。これらの科目群により、社会科学全般の専門知識を深め、多角的な思考力を身に付けます。</p> <p>(CP2)「総合教育科目」群には幅広い教養講義科目と語学に関する科目が設置されています。この「総合教育科目」群により、自身のキャリアを広い視野をもって考えることができるような幅広い知識の育成を行うとともに、基本的な外国語力を身に付けます。</p> <p>(CP3)「キャリアデザインプログラム科目」群において、少人数のPBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)形式の科目を1年次から4年次まで学ぶことができます。「キャリアデザインプログラム科目」群を通じて、就業力の基礎となる、論理的思考能力、自らの考えを表現し伝える力、必要な情報を探し出し整理し理解する力、問題発見・理解・解決能力といった力を身に付けます。</p> <p>[長所・特色]</p> <p>[問題点]</p>	<p>2019年度以降も引き続き、キャリアデザインプログラムにおける「教育課程の編成・実施方針」を本学ウェブサイトや「履修要項」に掲載することで、学生及び学外へ公開する。</p>	<p>キャリアデザインプログラムの教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を本学ウェブサイトにおいて公表しており、評価項目の求める基準はクリアしている。</p> <p>また、全学カリキュラム・ポリシーでは以下の記載があり、「教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な関連性」も明示されている。</p> <p>「学部横断プログラムのキャリアデザインプログラムにおいても、キャリア科目を中心とし、全学部の専門基礎科目を学修したうえで、選択した学部・学科の教育課程へ移行できるような制度が設計されています。」</p>	<p>S</p>	<p>■教育課程の編成・実施方針を公表しているウェブサイト →全学及びキャリアデザインプログラムのウェブサイト</p>	<p>助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。</p>

2019年度 自己点検・評価シート

キャリアデザインプログラム

基準4	教育課程・学習成果
-----	-----------

* 各組織における新たな目標または、「2018年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
* 2018年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2019年度期首時点)	①2019年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2019年度の取り組みとその成果 ②2019年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>●教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか ○各学部・研究科等において適切に教育課程を編成するための措置 ・「教育課程編成・実施の方針」と教育課程の整合性 ・授業課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ(必修、選択等) ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定(初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置、双方向教育、アクティブ・ラーニング等) ○学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施</p>	<p>[現状説明] キャリアデザインプログラムでは、教育課程の編成・実施方針に基づき、全学のディプロマ・ポリシーにふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。適切に教育課程を編成するための措置として以下のことを実施している。</p> <p>キャリアデザインプログラムの教育課程では、(CP1)に対応した「学部入門科目」群及び「学部横断履修科目」群、(CP2)に対応した「総合教育科目」群、(CP3)に対応した「キャリアデザインプログラム科目」群を設けている。</p> <p>(CP1)に定めた「学部入門科目」群では、キャリアデザインプログラム1年次生が履修する科目を開講している。ここで開講している科目は、主に各学部の1年次生が履修する科目(4学部×4単位分=16単位)である。具体的には、経済学部科目の「社会経済学入門」、経営学部科目の「会社入門」「流通マーケティング入門」、コミュニケーション学部科目の「コミュニケーション学入門」「社会調査入門」、現代法理学部科目の「リーガルリテラシー入門」である(上記の科目はいずれも履修必修科目)。2年次の学部所属に向けて、学部入門科目を1年次に履修させている(履修年次の設定)。併せて、入学時に配付する「履修要項」において、カリキュラム表や履修系統図を記載し、1年次の入門科目から2年次の各学部の専門科目履修への体系的な学びを明確にしている。</p> <p>また、「学部横断履修科目」群は、2年次以降の学部所属後も自身の興味・関心に合わせて各学部の専門科目を学部横断的に履修できる仕組みである。キャリア形成と関連付けた科目を6つの「クラスター」でグループ化しており、体系的な履修ができる。</p> <p>(CP3)に定めた「キャリアデザインプログラム科目」群は、1年次の科目は履修必修、2年次以降の科目は選択履修科目である。初年次からキャリア意識を培うべく、1年次は、「フレッシュヤーズ・セミナーa」「キャリアデザイン入門」や「キャリアデザイン・ワークショップⅠ・Ⅱ」を開講している。2年次も継続したキャリア教育を行うために、「キャリアデザイン・ワークショップⅢ・Ⅳ」(2年次)「キャリアデザイン・ワークショップⅤ～Ⅶ」(3年次以上)を設けている。</p> <p>1年次は、学部選択、ジェネリックスキル養成に主眼を置いた科目を開講している。2年次は、1年次で身につけた「態度能力」を更にブラッシュアップする科目を開講する。3年次以降の科目については、実際の就職活動に資する科目や、就業力を高めるためのPBL科目を開講する。</p> <p>以上のように、本プログラムでは、アクティブ・ラーニングに重点をおき、4年間通じた段階的なキャリア教育によって、学生のキャリアへの関心を高めていき、主体的な能力開発をおこなう。特に、本プログラムのキャリア教育では、社会の変化に合わせて、自己の能力をアップデートしていくことのできる柔軟な能力を育成することを目指す教育を実施している。</p>	<p>2017年度から始動した本プログラムにおいて、2019年度は3年目となる。現行のカリキュラムを安定的に運営していくことを目標とするとともに、学生のニーズを聞き取りながら、より教育効果の高い学習内容、教育課程を検討する。</p> <p>また、学部入門科目や学部横断履修科目、2年次からの学部所属については、各学部との協力が欠かせない。キャリアデザインプログラム運営委員会と各学部教務委員会・教授会において、開講科目調整や学部所属の連携を引き続き行う。</p> <p>加えて、2018年度の取り組みに対して内部質保証委員会より出された「所見」へ対応すべく以下の目標を掲げる。</p> <p>■当該学位課程に相応しい教育内容であることを示す根拠資料が求められます。</p> <p>→2018年度は「当該学位課程に相応しい内容であることを示す資料(学外者による評価結果など、教育課程の適切性を第三者的に示す資料)は現在はない。」としていたが、引き続き適切性を示す方策を継続して検討する。</p>	<p>2019年度はCP1～CP3に基づき、各科目を開講した。CP1に関連した「学部入門科目」では、4学部の入門科目(16単位分)を履修必修とすることで、2年次の学部選択につなげるとともに、社会科学の基礎的知識を身に付けることを目的とした。学部選択の点でみると、2019年度入学生(43名)の2年次の各学部所属者数は、経済学部6名、経営学部19名、コミュニケーション学部15名、現代法理学部3名という結果となった。全員が第1希望学部に所属できた。学部間で所属者数の偏りが昨年に引き続き生じたが、昨年よりは小さな偏りとなった。</p> <p>入学時に実施した所属学部希望アンケートと、11月に実施した所属学部希望調査(最終)の結果を比較すると、計19名(CDP生全体は43名)の学生が第1希望学部を変更している。本カリキュラムにより、入学時に各学生が思い描いていた学問イメージだけではなく、実際に履修することで気づいた学びから、2年次以降に自身が所属する学部を選択できている点はメリットである。2019年度は所属学部希望調査(最終)の際に、CDPの教員だけではなく、各学部の教員と面談を実施する機会が例年より多かった。学部間の所属者数の偏りの解消に繋がるように、面談誘導に取り組むことも検討したい。</p> <p>「学部横断履修科目」は、2年次から履修可能であり、運用開始2年目であった(2018年度開始)。金融、広告、環境、福祉、情報、グローバル、ビジネスの6分野を用意し、6クラスター合計で82科目を開講した。履修者数について、クラスター科目として他学部科目を履修した人数は、2年生は16名(50名中)、3年生は15名(50名中)。最もクラスター科目を履修した学生は、2年次の全履修科目の18%(履修した22科目中4科目がクラスター科目)であった学生もいた。2年、3年生は卒業要件を満たすことを優先に自学部科目を履修していた学生が、余裕のある4年次にクラスター科目を履修する可能性は大いにあるため、今後も検証が必要である。</p> <p>CP2に関連した「総合教育科目」では、各学生が興味関心のある教養系科目を履修した。</p>		<p>■履修要項やシラバスなど、教育課程の内容が分かる資料 ※・教育課程の体系的性を示す資料としては、カリキュラム・マップ、学協会等が定めるモデルカリキュラムとの関係性を示した資料などが考えられる。※・当該学位課程に相応しい内容であることを示す資料としては、学外者による評価結果など、教育課程の適切性を第三者的に示す資料などが考えられる。</p> <p>→CDP履修要項、CDP科目シラバス、CDPカリキュラム表(履修の手引き、履修要項に掲載)、CDP履修系統図(履修要項に掲載)</p> <p>※・当該学位課程に相応しい内容であることを示す資料(学外者による評価結果など、教育課程の適切性を第三者的に示す資料)は現在はない。</p>	

2019年度 自己点検・評価シート

キャリアデザインプログラム

基準4	教育課程・学習成果
-----	-----------

* 各組織における新たな目標または、「2018年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
 * 2018年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2019年度期首時点)	①2019年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2019年度の取り組みとその成果 ②2019年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
③	<p>[長所・特色]</p> <p>[問題点]</p>		<p>CP3に関連した「キャリアデザインプログラム科目」では、「フレッシュャーズ・セミナーa」「キャリアデザイン入門」や「キャリアデザイン・ワークショップⅠ・Ⅱ」(1年次科目)、「キャリアデザイン・ワークショップⅢ・Ⅳ」(2年次科目)を開設した。これらの科目は、将来のキャリアを見据えた学部選択に寄与するとともに、少人数型のPBL(Project Based Learning)授業で「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」という社会人基礎力を養成した。</p> <p>2年次以降は、カリキュラム表や履修系統図(入学時に配付した履修要項で提示)で定めるとおり、所属学部の専門科目や、総合教育科目、キャリアデザインプログラム科目を履修する。 2年次(50名)が履修可能な「キャリアデザイン・ワークショップⅢ」「同Ⅳ」(選択履修)については、「Ⅲ」は31名(2クラス合計)、「Ⅳ」は20名(2クラス合計)、3年次(50名)が履修可能な「キャリアデザイン・ワークショップⅤ」「同Ⅵ」「同Ⅶ」(選択履修)については、「Ⅴ」は29名(2クラス合計)、「Ⅵ」は25名(2クラス合計)、「Ⅶ」は7名(1クラス)が履修しており、多くの学生に継続したキャリア教育を行えている。</p>	A		<p>助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。</p>

2019年度 自己点検・評価シート

キャリアデザインプログラム

基準4 教育課程・学習成果

* 各組織における新たな目標または、「2018年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
* 2018年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2019年度期首時点)	①2019年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2019年度の取り組みとその成果 ②2019年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>●学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか ○各学部・研究科等において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置 ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置(1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等) ④・シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等) ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法 ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数 ・適切な履修指導の実施</p>	<p>[現状説明] ①単位の実質化を図るための措置 キャリアデザインプログラムの1年次では、単位の実質化を図るため、1年間に履修できる単位数の上限数を48単位としている。なお、2年次から所属する学部により、1年次(キャリアデザインプログラム)の履修制限単位数と2年次(学部所属後)以降の履修制限単位数が異なる場合がある。 ②シラバスの内容及び実施 シラバスでは、授業の形態・方法・内容、到達目標及び全学ディプロマポリシーとの関連、事前・事後学習、授業計画、評価方法の項目があり、記載している。2017年度より、シラバス内容の第三者チェックを厳密に行い、キャリアデザインプログラム運営委員会で定めた担当者(教務委員等)が点検している。 ③学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法 1年次科目の「フレッシュャーズ・セミナーa」、「キャリアデザイン・ワークショップⅠ・Ⅱ」は少人数制のワークショップ型授業である。特に、「キャリアデザイン・ワークショップⅡ」では、リアセック社と連携し、タクナルテキストを用いたProject Based Learning形式の授業を実施している。また、2年次以降の「キャリアデザイン・ワークショップⅢ～Ⅶ」において、体系的なキャリア教育を行っている。授業を通じて、キャリア形成のための力(主体性、論理的思考能力、プレゼンテーションやファシリテーション能力など)や、コミュニケーション能力というジェネリクススキルに加えて、問題発見・理解・解決能力やリーダーシップ力を育成している。また、2018年度は2017年度に続き、正課外活動として、企業とのコラボレーションプログラムを実施した。各種ワークショップやシンポジウムの運営等を学生主体で行い、実践的なアクティブ・ラーニングを行った。2019年度も継続して正課外活動の充実を図る。 ④1授業あたりの学生数 キャリアデザインプログラム科目のうち、「キャリアデザイン入門」は1年次生全員が1クラスで履修する科目である。その他の「フレッシュャーズ・セミナーa」、「キャリアデザイン・ワークショップⅠ・Ⅱ」は少人数制を基本とし、各クラス13～22名の履修者数である。 2年次以降のキャリアデザインプログラム科目「キャリアデザイン・ワークショップⅢ～Ⅶ」については、各クラス6～19名の履修者数で授業を実施している。 ⑤適切な履修指導の実施 入学式後の新入生オリエンテーション、4月と9月には学習相談(成績不振者などが対象)を実施し、履修指導を行っている。そのほか、キャリアデザインプログラム支援担当特命講師による面談(特命業務)を適宜実施している。特に、2年次所属学部を1年次11月末に決定する際には、プログラム担当教員(運営委員、特命講師)との面談を課している。この面談を通じて、各学生が希望する学部のカリキュラムや履修に対する理解を深めさせている。</p> <p>[長所・特色]</p> <p>[問題点]</p>	<p>①単位の実質化を図るための措置 2019年度以降も単位の実質化を図るため、1年間に履修できる上限単位数を設ける。その単位数については、48単位を維持する予定である。一方で、本プログラムの上限単位数はコミュニケーション学部及び現代法学部のそれに合わせているため、全学的に上限単位数を見直す場合には、本プログラムにおいても見直しを検討する。 ②シラバスの内容及び実施 毎年、全学教務委員会から示されるシラバス原稿記入要領に基づき、キャリアデザインプログラム科目のシラバスを作成、第三者チェックを行ったうえで、適切な内容を公開するように努める。 ③学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法 1年次のワークショップ型科目を継続して開講するとともに、2年次以降の「キャリアデザイン・ワークショップ」の履修者数を確保する。授業内容に関しては、授業への参加態度や成績、全学的に行っているmanabaを活用した授業アンケート結果に基づき、改善点を検討する。正課外活動も継続して行い、学年を超えてキャリアデザインプログラム生が交流し、学びあう環境を整備する。 ④1授業あたりの学生数 キャリアデザインプログラム科目では、少人数制の授業を基本とし、現制度の維持を行う。 ⑤適切な履修指導の実施 年2回の学習相談を継続して実施する。学生の学習状況把握のために、キャリアデザインプログラム支援担当特命講師による面談時間を十分に確保する。</p>	<p>①単位の実質化を図るための措置 現状説明で述べたとおり、キャリアデザインプログラムの1年次では、単位の実質化を図るため、1年間に履修できる単位数の上限数を48単位とした。 ②シラバスの内容及び実施 2019年度シラバス(2018年度作成)の内容については、キャリアデザインプログラム運営委員会で定めた担当者(教務委員等)が第三者チェックを実施し、明確な記載に努めた。2020年度シラバス(2019年度作成)についても引き続き、授業内容とシラバスとの整合性を確保するように努める。 ③学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法 「フレッシュャーズ・セミナーa」(新井 一央特命講師クラス)では、3ステップの段階型学習を実施した。具体的には、①:グループワーク(ディスカッション)、②:大学施設(部署)へのインタビュー、③:②の内容のプレゼンテーションである。 2期の「キャリアデザイン・ワークショップⅡ」で実施したタクナルテキストを用いた学習は学生の高い満足度を得ており、(特に初年次における)主体性開発に高い効果をもたらしたと考えられる。授業内での各種グループワークやワークショップを経験した学生らが中心となり、外部組織と協力したワークショップやシンポジウムを実施した。現状説明で述べたとおり、学生主体の企画運営を行い、1年次から実践的なアクティブ・ラーニングを行った。 ④1授業あたりの学生数 現状説明のとおり、キャリアデザインプログラム科目のうち、「キャリアデザイン入門」は1年次生全員(43名)が1クラスで履修した。その他の「フレッシュャーズ・セミナーa」、「キャリアデザイン・ワークショップⅠ・Ⅱ」は少人数制を基本とし、各クラス13～22名の履修者数であった。 また、2年次科目の「キャリアデザイン・ワークショップⅢ・Ⅳ」、3年次科目の「キャリアデザイン・ワークショップⅤ・Ⅵ・Ⅶ」については、各クラス25名の定員設定を行い、少人数授業を継続して実施した。 ⑤適切な履修指導の実施 入学式後の新入生オリエンテーション、4月と9月には学習相談(成績不振者などが対象)を実施し、履修指導を行った。そのほか、キャリアデザインプログラム支援担当特命講師による面談(特命業務)を適宜実施した。特に、2年次所属学部を1年次11月末に決定する際には、プログラム担当教員(運営委員、特命講師)との面談を課し、43名全員が1人1回以上の面談を実施した。こうした履修指導により、各学部の所属者数は前述のとおりとなった。</p>	<p>S</p>	<p>■授業期間、単位計算及び履修登録単位数の上限を定めた学則等の資料 →学則、学事歴、CDP履修要項、CDP履修の手引き ■履修要項、シラバスなど、授業の方法等が分かる資料 →CDP履修要項、CDP科目シラバス 2020年度キャリアデザインプログラム科目のシラバス執筆担当者及び第三者チェック担当者について(2019年10月16日CDP運営委員会資料) 《参考》 ・学生の学習の活性化を図る取り組みを示す資料として、学生の能動的参加を促す授業方法、学習支援ツールや履修指導等のガイダンス資料などが考えられる。 「フレッシュャーズ・セミナーa」の授業内容紹介 タクナルテキスト 4月の新入生オリエンテーションPPT 4月、9月学習相談記録 学部選択時の相談記録 また、その効果を示す資料として、授業時間外における学習時間の状況に関する資料などが考えられます。 →授業アンケート結果</p>	<p>助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。</p>

2019年度 自己点検・評価シート

キャリアデザインプログラム

基準4	教育課程・学習成果
-----	-----------

* 各組織における新たな目標または、「2018年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
* 2018年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2019年度期首時点)	①2019年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2019年度の取り組みとその成果 ②2019年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>●成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか ○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置</p> <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> 単位制度の趣旨に基づく単位認定 既修得単位の適切な認定 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 卒業・修了要件の明示 学位授与を適切に行うための措置 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示 学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 学位授与に係る責任体制及び手続の明示 適切な学位授与 	<p>[現状説明] 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか ○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置 ①単位制度の趣旨に基づく単位認定 講義科目の単位は、45時間の学習をもって1単位を授与すると言う趣旨に則り、半期1コマを2単位としている。また、キャリアデザインプログラム1年次生の履修制限単位数は48単位としている。なお、2年次から所属する学部により、1年次(キャリアデザインプログラム)の履修制限単位数と2年次(学部所属後)以降の履修制限単位数が異なる場合がある。</p> <p>②既修得単位の適切な認定 キャリアデザインプログラムにおける既修得単位認定に関しては、他の大学又は短期大学を卒業又は中途退学し、本プログラムの1年次に入学した者の既修得単位の認定、留学先大学で修得した単位の認定、一定の資格取得と講習会の受講を条件とした「コンピュータ・リテラシー入門」の単位認定、その他の「資格・検定に関する科目」の単位認定(TOEICスコア、中国語検定による)等がキャリアデザインプログラム履修規程、各種取扱規程、細則、及び要領に定められている。既修得単位認定が必要な該当者が発生した際には、キャリアデザインプログラム運営委員会が審議する。</p> <p>③成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 キャリアデザインプログラムにおける成績評価は、その方法・基準等がシラバスに明記されている。「フレッシュャーズ・セミナーa」や「キャリアデザイン・ワークショップ」といった同一科目を複数クラスで開講する授業の場合、事前、学期中、成績評価時において、担当教員間で密に連携をとり、クラス間で成績評価に偏りが生じないように調整を行う。授業評価結果に関して疑義がある学生は、「成績評価に関する問い合わせ」を行うことができる。自分の成績について正当な申し立て理由があり、全学教務委員会が認めた場合に限り、大学から当該科目の担当教員に文書で問い合わせを行う。さらに、学生及び保護者への成績通知には、同時に当該学期・年度の取得単位数やGPAが記載され、学生の学業成績を総合的・客観的に評価するための指標として活用されている。</p> <p>④卒業・修了要件の明示 キャリアデザインプログラムは、2年次から各学部に所属する仕組みをとるため、プログラム固有の卒業要件は設けていない。ただし、1年次科目及びキャリアデザインプログラム科目を記載した「カリキュラム表」、並びに、1年次に単位修得した科目が各学部所属後にどの科目区分で単位認定されるのかを示す、プログラム生用の各学部の卒業要件表を用意している。「カリキュラム表」並びに「各学部の卒業要件表」は「履修要項」及び「履修の手引き」で学生に周知している。これらにより、学生が1年次に履修する科目を理解するとともに、各学部の卒業要件を確認する一助となっている。</p> <p>⑤学位授与に係る責任体制及び手続の明示 学位授与については、学則(第21条)及び学位規則に基づき、学生が所属した各学部教授会の議を経た上で、学長が授与することとなる。全学の学位授与の方針(全学ディプロマ・ポリシー)、及び、各学部の学位授与の方針(各学部ディプロマ・ポリシー)で定めている修得すべき能力は、在学期間を満たし、卒業に必要な単位を修得することによって身につけると判断される。</p> <p>⑥適切な学位授与 学位授与に関しては、学生が所属する各学部教授会において、規程に基づき適切に判断し決定する。</p> <p>[長所・特色] [問題点]</p>	<p>①単位制度の趣旨に基づく単位認定 現行規則に則り、適切な単位認定を行う。</p> <p>②既修得単位の適切な認定 今後も、該当者がいる場合には、キャリアデザインプログラム履修規程、各種取扱規程、細則、及び要領に基づき、キャリアデザインプログラム運営委員会が適切な認定を行う。</p> <p>③成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 同一科目を複数クラスで開講する授業では、引き続き授業担当教員間の連携により成績評価の標準化を行う。</p> <p>④卒業・修了要件の明示 2019年度以降も、1年次科目及びキャリアデザインプログラム科目を示した「カリキュラム表」を、「履修要項」や「履修の手引き」に記載する。また、各学部でカリキュラム改革がある場合に、その都度、キャリアデザインプログラム生用の各学部の卒業要件表を見直す。</p> <p>⑤学位授与に係る責任体制及び手続の明示 現行どおり、学位授与は、規程に基づき、各学部教授会の議を経た上で、学長が授与する。</p> <p>⑥適切な学位授与 現行どおり、学位授与に関しては、学生が所属する各学部教授会において、規程に基づき適切に判断し決定する。</p>	<p>①単位制度の趣旨に基づく単位認定 現状説明で述べたとおり、現行規則に則り、適切な単位認定を行った。</p> <p>②既修得単位の適切な認定 2019年度の総合教育科目「資格・検定に関する科目」の単位認定(TOEICスコア等による)は、申請する学生が出た場合には、単位認定を行う。なお、他の大学又は短期大学を卒業又は中途退学し、本プログラムの1年次に入学した者、留学先大学で修得した単位を申請した者、一定の資格取得と講習会の受講を条件とした「コンピュータ・リテラシー入門」の単位認定を申請した者はいなかった。</p> <p>③成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 同一科目を複数クラスで開講する授業の成績評価標準化に関して、2019年度は担当教員間の調整によって、クラス間で極端な差がでないように配慮した。2020年度に向けて、左記「2019年度以降の達成目標」 達成度を測るための客観的な指標」で述べたうち、各クラスのレベルをできる限り均等にするための取り組みを紹介する。2019年度入学生以降のCDP生について、入試得点(AO、一般・センター利用入試)をクラス分けの際に活用している。これにより、各クラスの学力レベルをできる限り揃えるよう善処している。また、全学的な取り組みとして、成績評価登録依頼の案内文において、成績評価基準(評価記号と点数の対応)を周知するとともに、講義科目についてはS評価を履修者の20%以内にするよう基準が明示されている(2015年度の決定に基づく)。</p> <p>⑤学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ⑥適切な学位授与 2017年度新設の本プログラムでは卒業年次生はまだ在籍していないものの、引き続き2年次以降の所属学部で定められた学位授与の規程に基づき、学位授与が適切に行われているか注視する。</p>	A	<p>■卒業・修了の基準、判定方法、基準、体制等を明らかにした規程類 キャリアデザインプログラム履修規程及び各学部履修規程 CDP履修要項</p> <p>■成績評価方法、基準をあらかじめ学生が理解するための資料※ CDP科目シラバス</p> <p>■卒業要件、修了要件をあらかじめ学生が理解するための資料 CDP履修規程、履修の手引き</p> <p>《参考》 ・成績評価の適正な実施を示す資料として、成績評価基準に関する教員間の申し合わせやその運用事実が分かる資料などが考えられる。 『成績評価登録について(依頼)』全学教務委員長名文書</p>	<p>助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。</p>

2019年度 自己点検・評価シート

キャリアデザインプログラム

基準4	教育課程・学習成果
-----	-----------

* 各組織における新たな目標または、「2018年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
* 2018年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2019年度期首時点)	①2019年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2019年度の取り組みとその成果 ②2019年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>⑥ ●学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか ○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定 ○学習成果を把握及び評価するための方法の開発(アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生、就職先への意見聴取など)</p>	<p>[現状説明] ○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定 ○学習成果を把握及び評価するための方法の開発</p> <p>学生の全体的な学習成果を測定する指標としてGPA(Grade Point Average)を導入している。 またキャリアデザインプログラムでは、1年次生全員を対象に「PROG」を実施している。「PROG」は、社会で求められる汎用的な能力、ジェネリックスキルを、リテラシーとコンピテンシーの2種類で測定している。その結果を学生にフィードバックする機会(解説会)を設けている。学生は1年次の段階から自身のジェネリックスキルを客観的な指標で把握することができる。</p> <p>[長所・特色]</p> <p>[問題点] 「PROG」はジェネリックスキルを客観的に測る指標となる反面、その結果の活用方法、能力が低く測定された学生のフォロー体制の整備が必要になる。</p>	<p>2019年度以降も1年次生に対しては、「PROG」を受験させ、早い段階から社会人基礎力の把握を行う。また、2019年度より、3年次生に対しても「PROG」テストの実施を予定しており、学生自身が1年次に受験した際の結果と比較を行い、学修成果の把握に活用する。</p> <p>2年次以降の学部所属後もGPAや取得単位数に基づく成績の追跡調査を行うとともに、「キャリアデザイン・ワークショップⅢ～Ⅶ」といった2年次以降のキャリアデザインプログラム科目において、アンケートを実施するなどし、学生の学習状況を継続して把握する。</p>	<p>○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定 ○学習成果を把握及び評価するための方法の開発</p> <p>学生の全体的な学習成果を測定する指標としてGPA(Grade Point Average)を利用し、学習相談時に活用した。 キャリアデザインプログラムでは、1年次生全員を対象に「PROG」を実施(4月末)、その結果をプログラム担当教員であれば確認できるように共有し、面談時に活用するよう努めた(学生カルテ)。左記「現状説明」の問題点で述べた点について、本プログラムは定員50名と少人数であり、能力が低く測定された学生へのフォローは比較的行き届いているものと考えられる。 現状では「PROG」は1年次のみで実施する枠組みである。学修成果の把握の観点で「PROG」を利用する場合、定期的に測定(例えば同一学生に対して毎年度実施)することも一案ではあるが、費用対効果や具体的な活用方法の検討を進めてからでないと効果が望めないと考えられるため、引き続きの課題とする。2019年度は3年次生に再度PROGを受験させることにより、1年次との比較を試みたが、全員受験には至らなかった。また、受験した学生の判定を1年次時点と比較すると、判定が上がった学生、下がった学生、変わらなかった学生がいた。このことから、1年次から3年次まででポジティブな変化や成長があったと結論づけるには至らない結果となった。</p>	A	<p>《参考》 ・卒業生調査の調査票やルーブリックなど、学習成果の把握に用いている資料、その運用が分かる資料などが考えられる。 ・学習成果を把握し評価する学内組織に関する資料など、学習成果の把握・評価にあたる体制が分かる資料などが考えられる。</p> <p>PROG結果及びPROGの強化書(解説会で利用)</p>	<p>「学修成果の評価の方針(アセスメント・ポリシー)」に掲げた項目の評価測定を確実に行ってください。</p>
<p>⑦ ●教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか ○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価(学習成果の測定結果の適切な活用) ○点検・評価結果に基づく改善・向上</p>	<p>[現状説明] ○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価(学習成果の測定結果の適切な活用) ○点検・評価結果に基づく改善・向上</p> <p>前述のとおり、キャリアデザインプログラムでは、GPAや「PROG」を用いた学習成果の把握を行っている。それらの情報に加えて、提出された所属学部希望調査書を学生ごとにまとめた「学生カルテ」を作成している。「学生カルテ」は学生との面談にも用いられており、学生の履修や学習指導、所属学部の相談等に活用されている。</p> <p>[長所・特色]</p> <p>[問題点]</p>	<p>GPAや「PROG」、提出された所属学部希望調査書をまとめた「学生カルテ」については、1年次の学部選択で活用するものである。2019年度以降も1年次生に対しては同様に「学生カルテ」を作成し、面談や履修指導に活用する。あわせて、2年次以降の学生についても、1年次の「学生カルテ」及びその後の学習相談記録をポートフォリオの形でまとめ、学部所属後の学習状況把握及び就職支援に利用することを検討する。</p>	<p>○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価(学習成果の測定結果の適切な活用) ○点検・評価結果に基づく改善・向上</p> <p>現状説明のとおり、学生カルテを用いて学生の所属学部選択(に係る教員による個人面談業務)に一定の効果(利便性)があったと考えられる。課題としては、学生カルテの活用が学部選択時の面談のみに限られていた傾向にある。日常の学生からの相談や質問についても同様に記録をつけ、ファイリングし、担当教員間で共有することができれば、学生の考えにより多くの教員が触れることができ、学習支援、キャリア形成支援につなげられる可能性もある。学生カルテ(面談記録)の多角的な活用については引き続きの課題とする。</p>	A	<p>《参考》 ・学習実態の把握とそれに基づく改善・向上の取り組みを示す資料や、教授会や教育の運用にあたる各種委員会、全学内部質保証推進組織等の活動が分かる資料などが考えられる。</p> <p>学生カルテ</p>	<p>「学修成果の評価の方針(アセスメント・ポリシー)」に基づいた調査・集計・分析の検証をFD等で共有し、更なる改善につなげてください。</p>

2019年度 自己点検・評価シート

キャリアデザインプログラム

基準5	学生の受け入れ
-----	---------

* 各組織における新たな目標または、「2018年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
* 2018年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2019年度期首時点)	①2019年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2019年度の取り組みとその成果 ②2019年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>●学生の受け入れ方針を定め、公表しているか ○「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」を踏まえた「入学者受け入れ方針」の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の知識・能力、意欲、基礎学力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法</p>	<p>[現状説明] キャリアデザインプログラムにおける学生の受け入れ方針は、本学ウェブサイトにて以下の内容が公開されている。また、大学案内Space内にも同内容が記載されており、受験生への周知をはかっている。</p> <p>キャリアデザインプログラムは、カリキュラム・ポリシー(OP)で示す教育課程において必要となる、次のような意欲、基礎学力等を持った人物を求めます。</p> <p>全学アドミッション・ポリシー(全学AP1~4)に加え、以下のことを入学時において求めます。</p> <p>(AP1)自らのキャリア形成に高い関心と意欲を持つとともに、経済学・経営学・コミュニケーション学・法学という社会科学一般に広く関心を持つ人 (AP2)就業力の基礎となる、論理的思考能力、自らの考えを表現し伝える力、必要な情報を探し出し整理し理解する力、問題発見・理解・解決能力といった力を、大学における学問的な学びを通して、自ら積極的に身に付けることをめざす人</p> <p>上記のことを踏まえて、全学アドミッション・ポリシーで示したような入学者選抜(入学試験)を行います。</p> <p>特に、キャリアデザインプログラム AO入試においては、大学における学習を自ら設計し社会人基礎力を身に付けていくために必要な基礎学力に加え、主体的に自らのキャリアを形成していく意欲とこれまでの学校生活におけるリーダーシップ経験などを書類審査によって確認したうえで、自らの意見を表現するコミュニケーション力とともに他者の意見や問題を理解する力を重視してグループ討論を行います。</p> <p>[長所・特色] [問題点]</p>	<p>2019年度以降も引き続き、キャリアデザインプログラムにおける学生の受け入れ方針を本学ウェブサイトや大学案内Spaceに掲載することで、受験生及び学外へ公開する。</p>	<p>キャリアデザインプログラムにおける学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を大学案内Space及び本学ウェブサイトにおいて公表しており、評価項目の求める基準はクリアしている。</p>	<p>A</p>	<p>■入学試験要項※ ■学生の受け入れ方針を公表しているウェブサイト 大学案内Space 本学ウェブサイト</p>	<p>助言等は特にありません。 引き続き改善・向上に努めてください。</p>

2019年度 自己点検・評価シート

キャリアデザインプログラム

基準7	学生支援
-----	------

* 各組織における新たな目標または、「2018年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
* 2018年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2019年度期首時点)	①2019年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2019年度の取り組みとその成果 ②2019年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>●学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。</p> <p>○学生の修学に関する支援</p> <p>④ 留学生等の多様な学生に対する修学支援</p> <p>⑤ 障がいのある学生に対する修学支援</p> <p>⑥ 成績不振の学生の状況把握と指導</p>	<p>[現状説明]</p> <p>①留学生 キャリアデザインプログラムでは、まだ留学生が入学していない(2019年度現在)。ただし、以下の全学的な修学支援体制は本プログラムでも整備されている。 留学生に対する大学独自の奨学金制度(授業料減免及び給付奨学金)がある。また、留学生を対象にした日本語教育の授業を行っている(例、①「日本語基礎セミナー I a」: 大学生生活に必要な日本語をコミュニケーション行動という視点から実践的に学ぶ。②「日本語基礎セミナー I b」: 2年次以降の「演習」で学ぶために必要な日本語をコミュニケーション行動という視点から実践的に学ぶ)。他に留学生のための学生チューター制度があり、日本人学生との交流と留学生の学習面のサポートを行っている。</p> <p>②障がいのある学生 キャリアデザインプログラムでは、障がいのある学生や特別の事情のある学生に対する修学支援に関して、学生支援会議の方針及び東京経済大学「障害のある学生支援の基本方針」に基づき、関連の事務部局ばかりでなく、キャリアデザインプログラム運営委員会や各学部・全学教務委員会なども連携して対応する体制が整備されている。特に、学習センターを通じた合理的配慮が行われている。 また、学生に対する個別の対応に留まらず、全学的なバリアフリー化や車椅子利用に配慮した教室施設の整備なども進められている。</p> <p>③成績不振者 成績不振者に対しては、取得単位の基準を設け、これを下回る学生に対し、学習相談を行った。2019年度4月には呼出対象の7名中4名が学習相談会に出席した。</p> <p>[長所・特色]</p> <p>[問題点]</p>	<p>①留学生 今後、留学生が入学した場合も、全学的な修学支援体制に基づき対応を行う。特に、キャリアデザインプログラムではワークショップ形式の授業科目が多数用意されているため、日本人学生とのコミュニケーションの円滑化及び適切な支援を授業担当教員が行う。</p> <p>②障がいのある学生 今後、障がいのある学生や特別の事情のある学生が入学した場合も、大学の方針と合理的配慮の方針に基づき、適切に対応を行う。身体的な障がいのみならず、精神的な障がいのある学生のフォローについても教員と関連部署が連携し修学支援を行う。</p> <p>③成績不振者 2019年度以降も、成績不振者に対し、学習相談へ呼び出す取得単位数の基準を設ける。なお、今後、学生の学習状況や取得単位数の推移を鑑み、取得単位数の設定ラインを変更する必要がある。また、学習不振の傾向がある学生に対しては、早期から適切に面談を行うなど丁寧な対応を行い、学習意欲の向上を図る。</p>	<p>①留学生に関しては現状説明で述べたとおり、現状ではCDPに留学生が在籍していないため、2019年度の取り組みを評価することはできない。</p> <p>②障がいのある学生支援については、少人数科目の利点である学生と教員との距離の近さ(学生の変化に気づきやすいこと)を活かし、精神的な問題を抱えた学生へのフォローを行った。</p> <p>③成績不振者への対応については、春は4名、秋は2名の成績不振者に対して学習相談を実施した。CDPでは2年次に学部所属する際に、通常の学部生(1年次から学部所属している学生)と比べ、当該学部の専門科目の履修科目数が少ない。よって、CDP生は、2年次の所属学部での学習において、通常の学部生以上に努力する必要がある。裏を返せば、1年次の学習で苦勞した学生は2年次での学習に全くついていけない可能性すらある。CDP運営委員会として、2年次以降も成績不振学生の追跡を継続して行っていくことが課題である。</p>	A	<p>学生支援の基本方針(学生手帳にも記載)</p> <p>東京経済大学「障がいのある学生支援の基本方針」</p> <p>成績不振者呼び出し基準(CDP)1期・2期資料</p>	<p>助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。</p>
<p>●学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか</p> <p>○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価</p> <p>○点検・評価結果に基づく改善・向上</p>	<p>[現状説明]</p> <p>キャリアデザインプログラムは、定員50名のプログラムであり、少人数制のワークショップ型授業が多く用意されている。そのため、一人ひとりの学生に対して授業担当教員が密にフォローできる体制は整っている。毎月1回程度開催されるキャリアデザインプログラム運営委員会において、成績や学習状況、所属学部希望の結果が共有され、学生の様子が授業担当教員から報告されている。2018年10月17日開催のCDP運営委員会において、CDP生支援の適切性の点検・評価方針を確認しており、今後もCDP運営委員会がCDP生の状況を把握、支援体制の適切性をチェックする機能を有することとした。</p> <p>併せて、基準4-⑦で述べたとおり、GPAや「PROG」の結果をまとめた「学生カルテ」を学生面談で活用している。学生との面談業務は、主にキャリアデザインプログラム支援担当特命講師が特命業務として担当している。面談業務を含む特命業務に関しては、キャリアデザインプログラム運営委員長が指揮を執り、その業務内容(学生支援業務)の適切性をキャリアデザインプログラム主任が定期的に点検している。 また、成績不振者の対応として、「1年次の修得単位数が32単位以下」という学習相談の呼出基準を設けた。この基準に基づき、2018年度入学生(50名)のうち、2019年4月の学習相談に7名を呼び出し、4名が出席した。</p> <p>[長所・特色]</p> <p>[問題点]</p>	<p>2019年度以降も運営委員会内において、学生の成績(取得単位数やGPA)・学習・履修状況を確認するとともに、早急に対応が必要な学生がいれば、担当教員、関連部署が連携し、学生のフォローにあたる。成績不振者の呼び出しについても、学習相談に来ることを義務付けるとともに、そもそも成績不振者を作らないよう、特命講師の面談業務等を通じて、学生の状況把握に努める。</p>	<p>過年度に引き続き、2年次の学部所属に向けて、特命講師による学生面談業務を中心にプログラム担当教員が学生と個人面談を実施した。その記録を学生カルテに記録、共有することで、学生の興味関心に沿ったアドバイスを行った。その結果、2年次所属学部は基準4で示したとおりとなった。 特命業務の管理はCDP主任が定期的に勤務状況を確認した。</p>	A	<p>学生カルテ書式(現物は個人情報を含むため割愛)</p> <p>成績不振者呼び出し基準(CDP)1期・2期資料</p>	<p>助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。</p>

2019年度 自己点検・評価シート

キャリアデザインプログラム

基準11 教学ビジョン(4つのクオリティ)

*各組織における新たな目標または、「2018年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
*2018年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2019年度期首時点)	①2019年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2019年度の取り組みとその成果 ②2019年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>●教学ビジョンの実現に向け、エデュケーション・クオリティを向上させる取り組みが行われているか ○各組織の長所・特色となるような教育やプログラムの実施</p> <p>②</p>	<p>[現状説明] 教学ビジョン「エデュケーション・クオリティ」(2019年4月12日改定)の「現在の特色」として、以下の内容が取り上げられている。</p> <p>入学後の学部選択 2017年度からスタートしたキャリアデザインプログラムでは、キャリア形成の一環として2年進級時に学部を選択。4年間を通じた段階的・継続的な少人数キャリア教育を実施</p> <p>また、対外的な広報媒体である大学案内「Space2021」においては以下の3つの特長を紹介している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●4年間を通じて段階的・継続的なキャリア教育を展開 ●学部所属は2年次に。1年次は入門科目から自分の興味を見極める ●2年次以降、学部所属後も学部横断型の履修が可能 <p>[長所・特色]</p> <p>[問題点]</p>	<p>2019年度(プログラム3年目)については、円滑なプログラム運営を目標とする。</p> <p>また、2018年度の取り組みに対して内部質保証委員会より出された「所見」へ対応すべく以下の目標を掲げる。</p> <p>次年度は、見直し後の教学ビジョン(ロードマップ)をPDCAの対象としてください。</p> <p>→教学ビジョン「エデュケーション・クオリティ」の2019年度の主な取り組みで掲げられている「PBL授業、ワークショップ授業の充実」への対応かつキャリアデザインプログラムが掲げる4年間を通じた段階的・継続的な少人数キャリア教育を実現するために、2年次以降のキャリアデザインプログラム科目「キャリアデザイン・ワークショップⅢ～Ⅶ」を多くの学生に履修させる。上記科目に限らず、所属学部が開講されているキャリア科目やインターンシップを履修する学生を増やすことも必要である。また課外活動においても、「ジョブシャドウイング」及び「大倉進一層キャリア塾」(2019年度よりキャリアデザインプログラム予算で実施)といった活動を継続するとともに、アクティブ・ラーニングをより拡充し、学生の主体的な学習を行う環境を整備する。</p>	<p>エデュケーション・クオリティに即した2019年度の取り組みとして、以下が挙げられる。</p> <p>基準4で述べたとおり、初年次から少人数のキャリア教育を実施し、多くの学生が授業を通じて主体性や協調性を身につけた。アクティブ・ラーニングは学生自身の主体性が重要であり、一部の学生の脱落(授業欠席等)は課題である。プルトップ型の学習環境については各種のイベント(2019年5月18日開催のキャリアデザインフォーラム「主体性を引き出すキャリア教育」や大倉進一層キャリア塾によるキャリアワークショップなど)を実施することで十分な体制が整っている。ボトムアップ型の学習環境の整備については引き続き検討していく。</p> <p>過年度に引き続き、学部所属後の2年次以降の学生の動向(学習状況、課外活動への参加、学部横断履修科目等)については継続して注視する。</p>	<p>A</p>	<p>キャリアデザインフォーラム「主体性を引き出すキャリア教育」(2019.5.18開催) PPT資料</p> <p>キャリアデザインフォーラム「主体性を引き出すキャリア教育」(2019.5.18開催)チラシ</p>	<p>成果が出ている様々な取り組みについては、他学部への情報提供を求めます。また、継続的に改善・向上が進められるようにスクラップ(スリム化)できる取り組みについても検討願います。</p>